それゆけアモっさん！

KUMAZAKURA

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
それゆけアモっさん！

【Ｎコード】
Ｎ２８５０Ｚ

【作者名】
ＫＵＭＡＺＡＫＵＲＡ

【あらすじ】
ドラクエ６の世界で『アモス』に転生してしまった物語。
ニコニコで見たリメイク版アモっさんの会話があまりに面白くて…衝動的に書いてしまいました……そして完結！　～？の嘘予告追加しました～

英雄爆誕（前書き）

作者はアモス＞テリーだと思います。

いや、テリーも好きなんですけどね。

英雄爆誕

子供の頃、いつまでサンタクロースを信じていただろうか？

俺は多分、幼稚園の時くらいまでだろう。近所のお店の名前が入った車でプレゼントを届けにきたサンタを見て絶望した記憶がある。そこからだ、クリスマスは俺にとって両親から無償でプレゼントを貰える日だと認識したのは。

正月も似たような認識だ……神様なんていない。願っても叶わない、どんなに真摯に祈ろうが届きはしない。だから信じるのをやめて、自分だけを信じて頑張った……否、頑張ってきたハズだった。

なのに……

「――じゃあ君これから転生ね。特典は取説読んでね♪」

会社帰り終電内で寝ていたハズなのに気が付いたら真っ暗な空間に謎の存在と二人っきり、そして急に告げられるテンプ……いや、死んだ記憶はないけど？

「――じゃあ一発逝ってみよぉぉ！　これぞぉぉ神なる一撃ぃぃ！！」

こっちの困惑なんてどこ吹く風と言わんばかり声を高らかにのたまう謎の存在。その台詞とともに大きく後方へ何かを振りかぶる。

「――天上天下唯我独尊全知全能酒池肉林神罰天罰天誅焼酎……活人剣（ムラン）！！」

人はそれを大根斬りと呼ぶ。頭蓋骨陥没どころか即死コースなその一撃を受け、俺は意識を失った。

そして次に目が覚めた時は……

「――オンギャァァァァァ！！」

見たこともない場所で産声を上げながら再誕していた。

とりあえず言わせてくれ……俺が何をした？

この日俺は神様転生を果たしたのだった。

◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇

月日は巡り5年ほどの時が経った。

5年という年月は俺に現実感を持たせ、もはやこれが夢ではない

と受け入れるには十分過ぎる時間だった。
そして、とりあえずこの場所について情報収集した結果、大凡だがここがどんな世界なのかわかった。
結論から言おう、この世界は……
「あり得ねぇ、よりによってドラクエ世界かよ……」
一歩町の外に出たら普通に魔物（モンスター）がいるのだからビックリだ。ゼリー状の身体に無数の触手が付いた存在（通称：ホイミスライム）が闊歩しているのだ。
しかし現実は非情であり、もっと衝撃的な事実が判明した。
それは……
「アモス～？　お母さんこれから定期船でアークボルトまで行ってくるから良い子でお留守番よろしくね？」
……転生先が町の英雄様（モンストルヒーロー）でした。

◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇

ＳＦＣ版では地味様、リメイク版では会話キャラなあのお方でしたよ、どっちでも地味に強いけど。いや、もともと引換券よりはマシなのだろうか？
ちなみに現在は原作２５年くらい前かと思われる。確か原作では三十路の独身英雄（ヒーロー）だったし。
家族構成はアークボルトに単身赴任している父親、モンストルで一緒に暮らしている母親の３人家族だ。
なんでアークボルトにそのまま家族一緒に住まないのかは疑問だ

が……家のローンとかあるのだろうか？
まぁ、いいか。さて、ここでもう少しばかり回想に入ろうとしようか。

◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇

ある程度自由に動けるようになった時のこと。ふと、謎の存在が言っていた『特典』という単語を思い出した。
確か特典は取説を読むようにと言っていたが……ドコさ？
それらしきものは持っていなかった……そもそも母親の腹から出てくる時に持っていたら詰るわ。
だが本当に何も無いなんてことは……ないと思う。だって少なくともここは現代ではなかったのだから。そんなことを出来る存在が無駄に嘘を付くとは思えないのだ。
まぁ、説明くらいはしていけよ、とは思ったが。

「……そういえばステータスとかって見れるのか？」

あまり現実視をしていない考えが当時にはあり、試してみようと思ったのだ。
もちろんコントローラーなんてない。どうやってみればいいかわからないため、とりあえず念じてみた。
『つよさ』⇒『アモス』
――――――――――――――――――――――――――――――
――
なまえ：アモス

しょくぎょう：まちのこども
レベル：１
ちから：１
すばやさ：１
みのまわり：１
かしこさ：１２０
かっこよさ：１
さいだいＨＰ：１０
さいだいＭＰ：１
こうげき力：１
しゅび力：５
ＥＸ：０

Ｅ　ぬののふく

――

……普通に見れたよ。まぁ、予想通りにレベル１なのだが……

「……かしこさチート？　でもＤＱ６のかしこさって無駄パラメーターじゃん……」

まぁ、転生した身だからね。それに幼い身では呪文習得とかに役立つかもしれないが……それ以外のパラメーターは多分普通だろう。

『つよさ』項目は見られたのだから他も確認できるハズだ。そう思い念じ続けてみる。すると……

『どうぐ』⇒『アモス』

――

E　ぬののふく
　アモスのとりせつ

――

……確かにあった。アイテム名は最悪だがな。一体どこに持っていたのだろうか？　とりあえず『アモスのとりせつ』を選択してみる。

『アモスのとりせつ』⇒『つかう』

「なになに……【タンスの中を見ろ】とな。はいはい、見ればいいんでしょ見れば……」

これ取説でもなんでもねーだろ。
まさかドラクエシリーズお馴染みの家宅捜査（ドロボウ）を現実に行うと思うと、なんか切なくなってきた。とは言ってもここは自分の家なのだが。とりあえず取説に従いタンスを開けるとそこには……

「大きな袋？　何が入ってるんだか……」

――

アモスは大きなふくろを
手に入れた

――

ある意味でこの『ふくろ』こそドラクエ史上最大のチートアイテムだよな。これも同じ四次元性能を持ってるのか？

密かな期待をしつつ中身を確認してみる。

『どうぐ』⇒『ふくろ』⇒『みる』

――

メタルキングのおたま　１
メタルキングフライパン　１
メタルキングナイフ　１
メタルキングおなべ　１
メタルキングまないた　１
メタルキングエプロン　１
メタルキングバンダナ　１
メタルキングミトン　１
うまのふん　９９
なぞのてがみ　１

――

「色々おかしいだろ！？　なんで調理具のメタルキングシリーズなんだよ？！　どうしてうまのふんが一緒に入ってるんだよ！　しかも９９個も！！」

ふくろの中身は相当カオスだった。うまのふんはアレか？　アモス本人の因果応報というか呪いというか……それにしてもこの調理

具にどれだけのメタルキングたちが犠牲になったのだろうか？
ツッコミ所が多過ぎるので一旦保留、読んでくれと言わんばかりの『なぞのてがみ』を見ることにする。

『なぞのてがみ』⇒『つかう』

「なになに……【やあやあ記念すべき凡人くん！　気まぐれだけど転生させてあげるよ☆　ちなみに特典内容はもうわかったよね？　最初からメタルキングシリーズがあるんだからチートプレイ万歳だね♪　原作なんてぶっ壊してもいいから好きにやってちょ？】……ＵＺＥｅｅｅｅｅｅｅｅｅｅｅｅｅｅｅｅｅｅｅｅｅｅｅｅｅｅｅｅｅｅｅｅｅｅｅｅｅｅ！！」

俺が一体何をしたぁぁぁぁぁぁぁぁ！！　平和に生きとったわボケェエエ！！　てゆーかメタルキングシリーズだけで原作プレイクなんぞできるかぁぁぁぁ！？

「はぁはぁ……ん？　追伸？　【追伸：初期状態で覚えてる魔法は僕からの餞別（サービス）だよ☆ここぞという時に使ってね～】……魔法なんて覚えてのか？」

あぁ、そういえば初期値でもＭＰはあったな……一体何を覚えているんだか……役に立つものならいいのだが。
いや、ここまできて期待はしない方がいいだろう。絶対に碌でもないものに決まっている。
若干ネガティヴになりながら魔法の項目を確認することに……

『つよさ』⇒『アモス』⇒『じゅもん』

――――――――――――――――――――――――――――――――

メガンテ

――――――――――――――――――――――――――――――

――

「本気(マジ)で碌でもねぇぇ……」

……本当に何もかもが嫌になったら使おうか。

◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇

……回想終了。

今思い出してもホント虚しいわ。しかし、仮にも原作ではモンストルの英雄になったのだから近い将来にあのモンスターと闘わなくてはならないかもしれないのだ。

せっかくメタルキングシリーズがあるのだから修行しておくに越したことはない。

そう、将来の目標は……

「――魔王を料理してやんよ。手始めにムドーからだな」

――（俺自身の）世界平和だ！！

英雄爆誕（後書き）

おたまとフライパンで「アモスラッシュ！」とか言ってみたりして。

英雄邁進（前書き）

ドラクエ？はムドーを倒すと神殿復活でバランスブレイクな気がする。

英雄邁進

人生そんなに甘くない。

ふと、思ったのだがムドーの島に行くには船が必要だ。そして城に行くにはドラゴンが必要だ。そしてそしてムドーと闘うにはラーの鏡が必要なのだ。

更に付け加えるのならばラーの鏡は月鏡の塔にあり、月鏡の塔にはカガミのカギが必要になる。カガミのカギはアモールでのイベントをクリアしないといけない。

そしてそれには夢の世界を自由に渡れなくてはならない……

「――やってられるか！？」

即効で挫折した、せざるを得なかった。

長い、長すぎるよ……

そして冷静に考えると装備チートで勝てるボスなんてせいぜいジャミラスまでだろう。

でもジャミラスは夢の世界だし、グラコスは海底、デュランはお空だし強いし、アクバーは狭間の世界だし強いし……ムドーは最初に述べた通りだし……

「……あれっ？　倒せる魔王いなくない？」

どうやら最初に掲げた目標は叶いそうになさそうだ。

夢の世界に渡れれば色々とどうにかなるかもしれないが……ここでは試しようがない。

仕方ないのでしばらくは修行に専念しよう。

全てはもう少し大きくなってからだ。

◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇

ライフコッド（上）あたりならお外で魔物（モンスター）と戦ってみるのもいいかもしれないが、ここはモンストル。
最初っから周辺の魔物（モンスター）が怖くて町の外に出られません。
装備チートでなんとか、とも思ったがいかせんレベル１のＨＰ１０だ。
ロンガデセオとかガンディーノじゃないあたりは未だ救いは感じられたが。

「……物語後半の町の住人はスゲーよ」

クワとカマの二刀流で上級魔物（モンスター）と戦うライフコッド（下）の農夫なんてどんだけよ？　素手で戦う金髪もいるがそこは割愛。
なので町中、自分の家で修行をしている。
少なくとも変な子を思われるのは避けたい、それに両親に迷惑をかけたくない。
なので……

「――切り刻め！　食材適所のカッティング！　はぁぁあ！！　千切り！　乱切り！　微塵切り！　これが俺のぉぉ！！　五月雨斬りだぁぁあ！！」

料理なんてしちゃってます。
いや、だってね……うまのふんがさ。
当初はうまのふんを換金しようとも思ったんだよ。

だが冷静に考えてみたらさ、ある意味そこら辺に落ちているものを売りに行くのってどうなのさ？　と思ったわけよ。しかも９９個相当のうまのふんをさ。

なので自宅畑の肥やしに使ってみたんよ……そしたらどっこい異常なほど野菜ができるできる。そしてうまのふんをいくら使おうとふくろの中は常に９９個……もしかしたらコレが一番のチートアイテムなのかもしれない。

そんなわけで腐らせるのも勿体無いということで、ご近所にお裾分けして更に余ったで料理なんて始めてみたのだ。

せっかくメタルキングシリーズの調理具があるのだから使わない手はない。

――

マーボーカレーが
できました

――

何か工程を激しく間違えている気がしたが料理（？）が完成した。

そしてここからが重要。

『どうぐ』⇒『マーボーカレー』⇒『つかう』

――

アモスは
マーボーカレーを

たべた

アモス「ウーマウマ」

アモスのキズが
かいふくした

ちから　が　１　あがった
すばやさ　が　１　あがった
みのまわり　が　１　あがった
かしこさ　が　１　あがった
さいだいＨＰ　が　２　あがった

――

ＴＨＥ☆ドーピング！
なんとこのメタルキング調理具シリーズで作った料理には能力アップが付加されるのだ！！
もちろん成功作兼うまのふんを肥料に作られた食材からの料理だけだが……
というわけで現在は修行という名の料理作りを毎日行っている。
そしてそれを１０歳になるまで色んな料理を作って繰り返したんよ、その結果……

『つよさ』⇒『アモス』

――

なまえ：アモス
しょくぎょう：りょうりにん
じゅくれんど：フードマスター
★★★★★☆☆☆
レベル：1
ちから：245
すばやさ：281
みのまわり：226
かしこさ：460
かっこよさ：192
さいだいＨＰ：765
さいだいＭＰ：1
こうげき力：245
しゅび力：285
ＥＸ：0

Ｅ　ぬののふく

★　や　☆　り　★　す　☆　ぎ　★　た　☆

ドラクエでこんなレベル1はモンスターズくらいだろう？

そして『りょうりにん』なんて職業いい加減だろ。

ちなみに『りょうりにん』の特性を語るとしたら以下の通り

料理人
★1：皿洗い　：忍び足
★2：下ごしらえ　：五月雨斬り
★3：家庭の味　：受け流し
★4：お袋の味　：深く思い出す
★5：フードマスター　：火炎斬り
★6：？？？？？？？？　：
★7：？？？？？？？？　：
★8：？？？？？？？？　：

ステータス補正　：無し

統一性がねぇぇ。
微妙過ぎる……悪くはないけど微妙過ぎるよ。
……まぁいい。多少（？）は俺も強くなったのだからそろそろ町の外に出ても大丈夫だろう。
そう考えるとドラクエ？の主人公なんて6歳で魔物（モンスター）と戦ってるんだよね……うん、人それぞれだよな！

早速、装備を整えて外に行くとしようか。

『つよさ』

レベル　：1

こうげき力：485（力：245　武：240）
しゅび力　：426（身：226　防：200）
かっこよさ：422（格：192　装：200　ボ：30）

E　メタルキングのおたま（攻：120　美：40）
E　メタルキングフライパン（攻：120　美：40）
E　メタルキングエプロン（守：100　美：40）
E　メタルキングミトン（守：　50　美：40）
E　メタルキングバンダナ（守：　50　美：40）

――――――――――――――――――――――――――――――
――

モンストル周辺の魔物（モンスター）よ、俺の経験値の犠牲になってくれ。
……ごめんなさい。まぢでチートだわコレ。

◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇

そして5年の月日が流れた……おいこら！

あれからメタルキングシリーズにて町の外で修行を開始、もちろん料理も続けていた。
もはやモンストル周辺で俺に敵う存在はいない。
【ピー！　レベル上げのシーンは残酷描写なため削除されました】
そして少し遠出した北の山辺りでモンストラーと遭遇し、普通に倒してしまった。
町の連中は知らないので特に英雄扱いはされなかった。
ちなみに今のステータスは……

『つよさ』⇒『アモス』

―――

なまえ：アモス
しょくぎょう：りょうりにん
じゅくれんど：八ッ星シェフ
★★★★★★★★
レベル：３０
ちから：５００
すばやさ：５００
みのまわり：５００
かしこさ：５００
かっこよさ：７３０
さいだいＨＰ：２５００
さいだいＭＰ：１
こうげき力：７４０
しゅび力：７００
ＥＸ：２７１６７７
Ｅ　メタルキングのおたま
Ｅ　メタルキングフライパン
Ｅ　メタルキングエプロン
Ｅ　メタルキングミトン
Ｅ　メタルキングバンダナ

―――

ついでに『りょうりにん』の職業特性

料理人
★1：皿洗い　：忍び足
★2：下ごしらえ　：五月雨斬り
★3：家庭の味　：受け流し
★4：お袋の味　：深く思い出す
★5：フードマスター　：火炎斬り
★6：流浪の料理人　：凍てつく波動
★7：コンソメキング　：火柱
★8：八ッ星シェフ　：瞑想

ステータス補正　：無し
極めステータスボーナス：HPカンスト限界突破

★俺☆が★魔☆王★か☆

むしろ並の魔王を軽く超越してしまいました……
でもなぜかMPは一切上がらず……使える呪文は『メガンテ』オンリー。
その代わり無駄に充実した特技の数々……そして特性。
チートプレイは人間としてダメです。

◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇

モンストラーの脅威もないので、気兼ねなくモンストルを出る決意をする。
行先なんて決まっていない。
とりあえず打倒魔王を目指し、あてもない旅をする。

「さらばモンストル……俺は行ってくる」

その身に纏うのはメタルキングシリーズ（の調理具一式）、大きな袋に（無限の）うまのふんを携え、少年（中身はおっさん）は生まれ育った町を後にする。

「とりあえずは夢の世界に行けるかどうかだな……やってやるさ！」

その日、料理人は世界へと羽ばたいた……！

英雄邁進（後書き）

ドランゴ萌え

英雄吃驚（前書き）

ぱふぱふ…それはシリーズごとの楽しみである

英雄吃驚

あの旅立ちから5年の月日が流れた……最近、色々と漢らしくなってきたアモスです。

定期船に乗り世界中を巡ってきた。

結論から言って、夢の世界には行くことができなかった。

俺が夢見の井戸を覗き込んでも唯の井戸であった……悔しくてついつい井戸魔人ごっこしてしまったのはご愛敬。

これで世界平和は主人公一味で預けるしか無くなってしまったわけだ。

そう割り切ったので颯爽と思考を切り替え、冒険を楽しむことにした。

持ち前のかっこよさを武器にジャンポルテの館でベストドレッサーコンテストに出場してフリーと男性部門を総ナメにしたり、マウントスノー北東にある氷の祠で雪女にお鍋をぶちまけたり、サンマリーノとロンガデセオのカジノから出入禁止されたり、フォーン城で鏡姫の年齢について真剣に考えてみたり、運命の壁からダイヴしてみたり、ホルコッタでうまのふんを踏んだり……色々あった。

まぁ、強いて言うなら既に魔法使いの資格を失ってしまったということだろうか？

詳しい内容は勿論割愛させてもらうが……大人になったということさ！

各地を転々としながら伝説を作り上げた結果、人々の間ではこう呼ばれるようになった。

『流離の料理人≪フルメタル・シェフ≫』と。

俺が魔物（モンスター）を切り刻む姿や、メタルキングシリーズの見た目からしい。

決して、料理をしているからではないのがミソ。

「キチンと（普通の）料理もしてるのになぁ……」

両手には血塗れのお玉とフライパン、装備は返り血をふんだんに浴びたエプロンやミトン……説得力は皆無だった。

ちなみに現在のステータスを確認しておくと……

『つよさ』⇒『アモス』

――

なまえ：アモス
しょくぎょう：りょうりにん
じゅくれんど：げんかいしらず
★★★★★★★★★
レベル：５０
ちから：７６５
すばやさ：７６５
みのまわり：７６５
かしこさ：７６５
かっこよさ：９９５
さいだいＨＰ：４０００
さいだいＭＰ：１

こうげき力：１００５
しゅび力：９６５
ＥＸ：２１８０６８６

Ｅ　（血塗れの）メタルキングのおたま
Ｅ　（血塗れの）メタルキングフライパン
Ｅ　（返り血を浴びた）メタルキングエプロン
Ｅ　（返り血を浴びた）メタルキングミトン
Ｅ　（返り血を浴びた）メタルキングバンダナ

★　俺　☆　が　★　神　☆　か　★

蛇足だが『りょうりにん』の特性……

料理人
★１：皿洗い　：忍び足
★２：下ごしらえ　：五月雨斬り
★３：家庭の味　：受け流し
★４：お袋の味　：深く思い出す
★５：フードマスター　：火炎斬り
★６：流浪の料理人　：凍てつく波動
★７：コンソメキング　：火柱
★８：八ッ星シェフ　：瞑想
★９：限界知らず　：会心の一撃

ステータス補正　　：無し
極めステータスボーナス：ＨＰカンスト限界突破
限界突破ボーナス　　：全ステータス限界突破
――――――――――――――――――――――――――――
――

もう1人でドレアムさんに挑めるよ……デスコッドにすら行けないけどさ。

◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇

更に1年後、いつも通りの当てもない旅の途中のことだった。
もはや俺に近づいてくる野生の魔物（モンスター）なんて存在しない。
むしろ忍び足で歩いていると弱者と勘違いした魔物（モンスター）が襲ってくる。
忍び足の効果が逆じゃん……
そのため、基本的に忍び足は使わないで歩いていると、近くの茂みから不穏な音が聞こえてきた。
特に警戒するつもりもないが、一応確認のため近づいてみることに、すると……

「……女の子？」

そこには薄汚い恰好をした少女が倒れていた。

「この格好は奴隷か？　そういえばここってガンディーノ周辺か…

…確か暴力団と国王がつるんで暴政を働いてるんだっけ？」

ゲーム本編ではあまり語られなかったが、確かそんな歴史があったハズ。

となればこの少女も被害者なのだろう。

「……はぁ、生きてる以上放っておくのもな……仕方無いか」

放置しておくと目覚めが悪いので近くの町にでも……ってそれはガンディーノか。

さすがにそれは本末転倒だな。

「……ついでだからモンストルまで里帰りを決め込むか」

そういえば彼此6年ほど帰郷していないことを思い出した。

モンストラーの脅威がないので今までまったく気にしていなかったが。

だからこそ少女の安全を考えると故郷（モンストル）が無難だと考えたのだ。

「行くか……はぁ、ルーラが使いたいな」

そう愚痴りながらキメラの翼を放り投げモンストルをイメージする。

いざ、ひとっ飛び！

ちなみに帰郷して母親（オカン）との再会の一言は

「――ＹＥＳ　ロリータ　ＮＯ　タッチ！！」

別に犯罪者じゃねぇよ。

それにロリってほどの見た目でもないだろうが。
家族間のコミュニケーションは重要だと再認識させられる会話だった。

◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇

「……あれっ？　ここは……？」

おっと、母親（オカン）と誠心誠意の家族会話（おはなし）をしている途中で少女が目を覚ましたようだ。
だがさっぱり状況は把握できていない模様。

「目が覚めたかい？　俺はアモス、ここはモンストル。ガンディーノ周辺で行き倒れになっていた君を拾ってきたんだ」

面倒くさいのでありのままを話すことに。
別に嘘を言う必要もないしな。

「あの……わたしは……」

少女は色々と混乱しているようだ。

「……アモス、ここは母さんに任せてアンタは食事の準備でもしてなさい」

まっ、ここは母親（オカン）に任せるとしますか……せっかくなので上手い食事（メシ）でも作りますかね？
俺は厨房に向い、母親（オカン）は少女を風呂場に向かわせる。

◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇

「——コイツは未来へと託す料理人の業（ワザ）だ！　火炎！　五月雨斬りいぃ！！」

————————————————————————————————

みそおでんが
できました

————————————————————————————————

調理工程がおかしい？　なに気にする事はない川´_ゝ`)

その間に母親（オカン）がお風呂で少女の体に付いたドロを落とし、着替えさせる。
　そして３人揃って食卓につく。

「まぁ、食べながらでいい。事情を聞いてもいいか？」

　みそおでんを囲って暗い話をするのは凄くシュールだと思ったが、最早後には引けない。
　少女もタマゴを食べながら語り始めた……

「ガンディーノは今…ごほっ！」

タマゴの黄身（茹でたもの）がノドに詰まった模様……シリアスが台無しだった。

◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇

少女の話を要約するとガンディーノの王様がギンドロ組という暴力団と手を結び悪政を布いているという……とりあえず予想通りだった。

しかも若い娘を拉致して奴隷…この場合は王の妾という扱いにして手籠めにしているんだとか……んでもって美し過ぎると王妃に嫉妬され地下牢に幽閉されるらしい。

スゲー無茶っぷりに全俺も慄いたよ。

ちなみにこの少女は後者で王妃の嫉妬を買ってしまったようだ。

よくよく少女を見てみると、顔は未だに幼さが残るものの全体的に無駄がない。

顔のパーツ一つ一つも上物……将来は美人になること確定だろう。

現在の年齢（とし）は…13，14くらいだろうか？

汚れを落とし普通の服に着替えたので、その将来性が良くわかる美少女だ。

それにしてもこの年齢（とし）の少女に手を出す国王か……

「――アモス、ちょっとガンディーノ行って滅ぼしてきなさい」

「もちつけ」

母親（あなたサマ）は息子（オレ）を何だと思っているんだ？

まぁ、自分でも並の魔王より強いという自負はあるが……

「――ッチ！　……もう大丈夫だからね？　ここにはそんな暴政をする国王も『嫉妬狂った超絶に下らない下賤で浅ましい不細工で心も醜い』王妃もいないから」

そう言って母親（オカン）が少女を抱き締める。

何かスゲー装飾された言葉だった気がするがスルーする。

抱きしめられた少女の目が次第に潤んでいき……

「……グスッ、うっ……うわぁぁん」

嗚咽、泣きだしてしまった。

「……今は泣きなさい。泣きやんだらちゃんと笑えるようにね」

何か母親（オカン）がやたら偉大に感じられました。

◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇

「そういえば貴女の名前を聞いていなかったわね？　何て呼んだらいいのかしら？」

すっかり泣きやんだ少女に向い母親（オカン）が問いかける。

それもそうか、普通は先に聞いておくべきだよな……きれいさっぱり頭の中から消えていたようだ。

そんなことを考えながら少女の回答を……

「あっ、ごめんなさい。わたしはミレーユといいます」

ふぅ〜ん『ミレーユ』ね……

……

……

……

……なんですと？

――引換券（テリー）のお姉さんとエンカウントしました！

英雄吃驚（後書き）

ＳＦＣ版では魔術師の塔によくお世話になったものです（主に熟練度）

英雄無想（前書き）

とりあえず年内はこれでラスト

英雄無想

あれから4年の月日が流れた……ホント時間の流れって早いな！？

まぁ、色々あった。

とりあえず回想していこうか……

◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇

保護した元・奴隷の少女ミレーユから頼まれ、即行でガンディーノに向い彼女の弟である引換券（テリー）を探したが……見つからなかった。

恐らくすれ違いにガンディーノを出たのだろう。

近辺を捜索してみたが終に見つけることができずモンストルまで引き返し報告……ミレーユが泣き、母親（オカン）に殺されかけ……てゆーか魔王すら超越している俺を殺しかける母親（オカン）ってなんなのだろうか？

とりあえずミレーユは俺もとい母親（オカン）が保護することになった。

「実は息子より可愛い娘が欲しかったのよ！」

そうカミングアウトする母親（オカン）……父親（オトン）ともっと頑張れば良かったじゃない？

「アレには根性と漢気と甲斐性が無かったからねぇ」

しみじみと自分の夫を貶さな。

てゆーかそれはヘタレと呼ぶのでは？

「でもそこが良かったのよ！」

どうやらヘタレ過ぎて母性本能が擽られたようだ……まぁ、あえて言うなら……

★ど☆う★で☆も★い☆い★

「あっ、あのっ！」

そんな無駄なやりとりをしているとミレーユが声上げ……

「わたし……旅に出たいんです！　その……弟（テリー）を探すために」

そうのたまった。

◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇

「……気持ちはわかるけど旅は危険よ？　特に女の子1人でなんて……」

「それでも……わたしのせいで弟（テリー）がガンディーノを出て行ったのなら……」

「もしかしたら弟が探しているかもしれない？」

「……はい」

多分その考えもあるだろう。

だけど原作の引換券（テリー）の行動を考えてみると……

姉さんを取り戻すんだ！

←

剣（と自分）が弱いから姉さんを取り戻せなかった……

←

強くなって最強の剣を探すぜ！

……うん、典型的なアレだな。

見事に手段が目的になってしまっているタイプだ。

まぁ、そのおかげで（本当に微妙な）強さを手に入れ、姉と（最悪に近いシチュエーションだったが）再会できたのだから、結果的には……

「――アモス！　ちゃんと聞いてるの！？」

引換券（テリー）の行動分析をしていたら母親（オカン）の怒鳴り声で思考の渦から呼び戻された。

どうやら母親（オカン）とミレーユの会話に結論が着いたみたいだ。

「それで母さんの結論は？」

その結果は……

「この娘（こ）が旅に出れるようにアンタが鍛えて上げなさい！」

……なんですと？

「マジっすか！？」

「ええ、リリカルと書いてマジカルよ！」

「どっちよソレ！？」

まぁ、生き方なんて人それぞれ……俺がどうこう言うべきもんじゃない。

だが他人様（ひとさま）に何かを教えられるほど、自分（ひと）が出来ているかはわからんが……そういう意味では俺にとっても悪い話ではない。

それに彼女（ミレーユ）に関われば夢の世界にも行けるかもしれないし（笑）

酷く打算的だが色々とメリットはあるだろう。

「いいけどさ……君こそ俺なんかでいいの？」

「はっ、はい！　不束者ですが、えっと……」

「……ほら打ち合わせ通りに！」

「――わたしに（冒険に必要な事項を）手取り足取り教えて下さい……師匠（おにいちゃん）！」

うん、とりあえず一般常識からだな……後で北の山まで行って理性の種を採ってくるとしようか。

◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇

そうして始まった彼女（ミレーユ）との修行の日々。

「まずは修行の方向性を決めなくてはならない。むやみやたらに剣

とか魔法とかを学んだところで『中途半端』が一番役に立たない！」

「はい師匠（にいさん）！」

結局その呼び名に落ち着いた。

おにいちゃんは何だか犯罪臭が漂うからな。

「なので特定職業になりきった気持ちで修行に取り組みなさい！」

所謂ダーマ方式でやっていきたいと思います。

だってアレって『生まれ変わったつもりで』っていってるじゃん。

要はなりきった気持ちであたれば問題ないハズ。

コスチュームを着ればなんでも出来る某双子のダンジョンと同じさ！

「はい師匠（にいさん）！　ちなみに最初は？」

弟子（ミレーユ）が少しばかりキラキラしたような目をしている気がする。

だが残念、もちろん最初は……

「――遊び人だ！！」

◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇

驚愕した弟子（ミレーユ）に遊び人の重要性を教える。

曰く、息抜きを知らないと心と体を壊す！

曰く、遊びを知らないと大人になってワーカーホリックになる！

曰く、大人になってからでは遅い！　それはただのダメ人間だ！
曰く、口笛を覚えれば効率良しｅｔｃ……

「――以上だ！　次に進みたければ遊び人を極めるんだ！」

至極まともに適当だがな！
だが弟子（ミレーユ）はどうも真面目な性格のようで……

「そんな意図があったなんて……わかりました師匠（にいさん）！　わたしは遊び人を極めてみせます！」

すんなり受け止めましたよ。
うん、素直で良い娘（こ）だ。
そのためにも早く修行メニューとか考えよう。
実は次のステップなんて大して考えていない……要は唯の時間稼ぎだ。

「うむ、ではまず夕食まで遊んでくるが良い！」

「はい師匠（にいさん）！」

スマン弟子（ミレーユ）よ……せめて美味しい夕食作っておくからさ。

そして……
その日の夕食時に帰ってきた弟子（ミレーユ）の姿は泥だらけだった。

◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇

そして3カ月後……

「師匠（にいさん）！　わたしは遊びを極めました！」

「よし！　次は踊り子だ！　足腰強化と身のこなしを鍛えるんだ！
それは戦いだけではなく日常生活にも役立つ！　それに踊りを覚えれば冒険の中での路銀集めも可能だ！」

「そっ、そんな意図が……わかりました師匠（にいさん）！」

以下似たようなことの繰り返し……一部は実地修行を踏まえて。

商人
冒険者ならば金換算ができねば、それに将来的にも無駄にはならない！

盗賊
ダンジョンとか潜るかもしれない、危険回避にも必要だ！

魔物使い
君は既に超一流のモンスターマスターさ！

ｅｔｃ……

そんなことを繰り返した4年の月日、そしてその結果……

『つよさ』⇒『ミレーユ』

――

なまえ：ミレーユ
しょくぎょう：ゆうしゃ
じゅくれんど：まちゆうしゃ
★★☆☆☆☆☆☆
レベル：２０
ちから：３５０
すばやさ：４２０
みのまわり：４００
かしこさ：４８０
かっこよさ：７０９
さいだいＨＰ：７７０
さいだいＭＰ：８９０
こうげき力：４８４
しゅび力：４８４
ＥＸ：５２１８５

Ｅ　はやぶさのけん
Ｅ　はやぶさのけん
Ｅ　みずのはごろも
Ｅ　ぎんのかみかざり
Ｅ　いのりのゆびわ

――

★や☆っ★ち☆ゃ★っ☆た★Ｚ☆
Ｅ★

ダーマ神殿ねぇのに適当になりきって極めさせていったら勇者になれちゃった。

それにこの４年間で料理ドーピングもしていた。
その結果がこれだよ……ちなみに装備は俺があげたカジノの景品とかだ。
そしてミレーユが勇者になる切っ掛けが……

「まさかミレーユがモンストルの英雄になるとは……いや女だから英傑か？」

なんと以前に北の山辺りで倒したハズのモンストラーが俺に復讐するため、モンストルへと襲いかかってきたのだ。
まぁ、ドランゴだって勝手に蘇生したくらいだし、あり得ない話ではないのかな？
その時の俺？　普通に昼ごはん作っていたよ？
いち早くモンストラーに気付いたミレーユが迎撃に出たんだ。

「師匠（にいさん）！？　火をつけたまま目を離さないで下さい！」

と、至極まともなことを言われた。
そしてアレは凄かった……というか酷かった。

身かわし脚
←
モンストラーの攻撃を回避
←
ルカニ
←
モンストラーの攻撃を回避
←
バイキルト
←

モンストラーの攻撃を回避
←
気合いタメ
←
モンストラーの攻撃を回避
←
隼斬り（隼の剣二刀流）
←
モンストラー撃破

……正真正銘の八つ裂きだった。

「――殺りましたよ師匠♪」

少しだけ返り血を浴びたミレーユの笑顔に俺は天を仰いだ。
どこで間違えたんだろうか……青空は回答なんてくれなかった。

◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇

そして旅立ちの日、俺たちは町の外まできていた。
町の人たちとの挨拶は事前に済ませているので、俺と母親とミレーユだけだ。

「寂しくなるわね、でも決めていたことだから仕方無いか……」

「オバ様……」

「うん、弟さん見つけたら帰ってくるんだよ？　ここもあんたの家

なんだからね」

「……はい、必ず」

抱擁を交わす2人を見てついつい溜息をつく。

ルーラ使えるんだし、何時でも帰ってこられるだろうが……

まぁ、雰囲気をブチ壊すようなことは言わないけどな。

「師匠（にいさん）……」

「ほらアモス、あんたも気のきいた言葉のひとつでもかけなさい」

「俺からは特にないさ……今生の別れでもないんだし」

「そっ、そうですよね……いつでも帰ってこれるわけですし……」

あっ、なんか沈んだ。

コイツ勘違いしている。

そもそも……

「一緒に行くんだから、そんな言葉かけても仕方無いだろうが……」

「――えっ！？」

なんだ気が付かなかったのか俺の旅支度に……まぁ、普段と装備はイマイチ変わらないのだがな。

「いくら実力が（ヤヴァイほど）ついたと言えど17歳の小娘一人で旅なんてさせるか……だろう母さん？」

「モチッ☆」

いい歳して☆はやめろ。

俺？　料理人　兼　冒険家　兼　農夫　兼　師匠　兼　家事手伝いの２５歳ですけどなにか？

「と、いうわけだ。さっさと引換券(おとうと)探しに行くぞ……ミレーユ」

そう言ってミレーユに手を出す。

「えっと……不束者ですが……」

そうモジモジしながらミレーユは俺の手を取った。

そして……

「――すっ、末長く宜しくお願いします師匠(ごしゅじんさま)！」

とりあえずは親指立ててグッ！っとしている母親(オカン)をしばき倒して北の山に向うか……理性の種のストックを確保しておこう。

こうして（人工で天然な）勇者(ミレーユ)と（魔王すら凌駕している）料理人(アモス)の引換券(テリー)探しの旅が始まった。

英雄無想（後書き）

ムドーフルボッコフラグが建ちました

英雄無双…そして楽園へ（前書き）

明けおめです！

そしてこれにて完結です！

宣言通り『冒険はこれからだ！』ＥＮＤです（笑）

英雄無双…そして楽園へ

あれから1年、俺たちは様々なところを周ってきた。

当初はミレーユが有名になってテリーに存在を知らせる案も考えたが、逆に見つからない可能性もあったため、その案は無しで地道に探す方向で各地を転々としていた。

姉さんが無事ならそれで……という考えがテリーにはありそうだし、ヘタレ過ぎて出てこられないかもしれないし。

まぁ、テリーのことはさておき俺たちは今、崖の上にいる。

そう、ムドーの城の手前にあるアソコだ。

「いよいよですね師匠(にいさん)……あれが魔王ムドーの城ですか……」

ミレーユの声に緊張の色が見える。

さもあらん、今まで戦ってきたのは基本的に雑魚ばっかだしな。

だが現ステータスで怯えることはない。

むしろここにくるまで時間をかけ過ぎたものだ。

「あぁ、ようやくだ。これで目標に一歩近づける……本当に長かった」

当初、ムドーを倒すと宣言してから早２０数年、やっとここまできた。

ある意味で感無量だ。

「しかし魔王ムドーは幻術の使い手と聞きます……真実を写し出すと言われるラーの鏡が無くても大丈夫なのでしょうか？」

ミレーユの言うことも尤もだ。
結局ラーの鏡は手に入れていない。
その気になれば月鏡の塔の扉なんてぶち破るのだが、その必要もなくなった。
当初はそこで行き詰っていたが……対策は考えている。
「何、問題ないさ……さて目標も確認できたし下がろうか？」
ムドーの城、そしてムドーがいるであろう部屋の位置は確認できた。
後は……
「一撃で終わらせてやるさ……」
そう言って焚き火のスペースまでミレーユ共々下がる。
「ミレーユは妨害が入らないように周囲を警戒しろ。特に上空からとか」
ダメージはないけど邪魔されたら腹立つし。
「はっ、はい。でも一体なにを……」
「見ていればわかる……いくぞ」
不安そうなミレーユにそう告げ、準備に入る。
スカラとかバイキルトとかちゃっちいもんは必要ない。
集中、力を貯め込み、練り上げる、更に集中する……逝ける！

「――とりあえず超奥義！」

そう叫びながら地を蹴り、崖まで一瞬で駆け抜ける！

そして崖の先を踏み切り、空中へと躍り出、体制を立て直しつつ、両手を前に突き出し貯め込み練り上げた力を解放する！

「――閃光烈火拳！！」

解き放たれた超高密度な灼熱の謎エネルギーは真っ直ぐにムドーの城、取り分けムドーのいる部屋に向って飛んでいく……周囲を破壊し続けながら。

そして数秒も立たないうちに目的地（ターゲット）まで辿り着き……

「……とか言ってみたりして」

轟音と共に周囲を覆う黒い雲を全て吹き飛ばし、城の一角を焼き払った。

主にムドーの部屋周辺を……王女のとどめの一撃まじパネェ。

「――さらばムドー……一度も会っていないが」

こうしてドラクエ６における最初で（ある意味）最後の難関、ムドーの撃破を成し遂げました……あっけな。

まぁ、現状ステータスなら直接戦う方が可哀想な気がするし……

『つよさ』⇒『アモス』

――

なまえ：アモス

しょくぎょう：りょうりにん
じゅくれんど：カンスト？　なにそれおいしいの？
★★★★★★★★★
レベル：６０
ちから：１３００
すばやさ：１５００
みのまわり：１４００
かしこさ：１２００
かっこよさ：１２３０
さいだいＨＰ：６０００
さいだいＭＰ：１
こうげき力：１５４０
しゅび力：１６００
ＥＸ：３５８１８１６

Ｅ　（やたら血塗れの）メタルキングのおたま
Ｅ　（やたら血塗れの）メタルキングフライパン
Ｅ　（めっちゃ返り血を浴びた）メタルキングエプロン
Ｅ　（めっちゃ返り血を浴びた）メタルキングミトン
Ｅ　（めっちゃ返り血を浴びた）メタルキングバンダナ

――

かなり蛇足だが『りょうりにん』の特性……

――

料理人

★１：皿洗い　　　　　　　　：忍び足
★２：下ごしらえ　　　　　：五月雨斬り
★３：家庭の味　　　　　　：受け流し
★４：お袋の味　　　　　　：深く思い出す
★５：フードマスター　　　：火炎斬り
★６：流浪の料理人　　　　：凍てつく波動
★７：コンソメキング　　　：火柱
★８：八ッ星シェフ　　　　：瞑想
★９：限界知らず　　　　　：会心の一撃
★１０：カンスト？何それ美味しいの？：閃光烈火拳

ステータス補正　　　　　：無し
極めステータスボーナス：ＨＰカンスト限界突破
限界突破ボーナス　　　　：全ステータス限界突破
限界突破ボーナス２　　　：常時２回行動

――――――――――――――――――――――――――――――――――――

――

★ご☆め★ん☆な★さ☆い★

色々と人間やめてしまったようです……今更ながら。

「あっ、着地考えてなかった」

そしてムドーの城へと落ちていく俺……宝箱の回収でもするか。
そうして半壊した城へと降り立った。

◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇

「おっ、炎の爪みっけ、アッチは人食い箱か……それにしては大人しいが」

とりあえず大体の宝箱は取ったしムドーをちゃんと倒せたか確認するか……一応は黒い雲も晴れているし大丈夫だと思うんだけどさ。

ダーマ神殿が復活しようがしまいが俺には関係ないし……どうせ行けないしさ。

そんなことを思いながらハッサン像が置かれる予定だった階段を過ぎ、ムドーがいたと思われる一室……てゆーか完全に廃墟やん。

「ふむ、やり過ぎたか……とりあえずミレーユにイオナズンぶっ放して瓦礫撤去をしてもらうか？」

反省、反省……ん？　今微かに動いたか？

『……さんぞ……ゆ…さん……』

おっ、何か生きてるっぽい。

『ゆるさんぞぉぉぉぉニンゲンがァァァァ！！』

瓦礫を吹き飛ばし緑色の肌を変な色に染めた生物が出てきた……ぶっちゃけ血（？）塗れでキモイことこの上ない。

「とりあえず先制の凍てつく波動……」

これがあればラーの鏡なんていらないだろう……黒い霧とか使え

たら俺には敵無しなんだがな……そうそう上手くはいかない。
周囲の魔法効果を吹き飛ばしたので幻術も怖くない。

『オノレェェコケニシオッテェェェェ！！』

そして更に残念、俺は2回行動ができる。

「——火炎斬り（会心の一撃）」

一瞬で懐に入り、炎を纏った（やたら血塗れの）メタルキングナイフを振り抜く。
神速の踏み切りと振り抜き……ムドーを焼き払いながら立ち切る。

『グォォォォ！！　ニンゲンゴトキニィィィィ！！』

「じゃあお前は人間未満なんだよ緑の物体……いや、あの一撃で沈まなかった執念だけは認めてやるさ……さっさと消え失せろ！！」

『ヌォォォォォォォォォォォォォォォォ！！！！』

魔王ムドー！　このアモスが討ち取ったり！

……本当にあっけないな。

◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇

ムドーを倒したのでダーマ神殿が復活した。
それに伴い、俺も夢の世界に行けるようになった。

理由なんぞ知らんが……ここまで来ればやることは決まっている。

目指すはデスコッド……そして悪夢に挑む。

誰が正攻法で大魔王なんざに挑むかバーカ。

◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇

『ま、まさか……このわたしがこれほど容易く敗れるとは……』

そこまで容易くなかったけどさ……2人パーティじゃ正直きついわ。

『完全にわたしの負けだ。よろしい、お前たちに従うことにしよう』

「これで……残り魔王と元凶を……」

『さぁ、来るがいい。お前たちの望みを叶えよう！』

そうしてルーラでひとっ飛び……あら不思議、目の前には皺くちゃのおじいちゃんがいるではないですか。

『な、なんじゃお前たちは！？』

『この者を倒せば良いのだな？　容易いことだ……』

「……ついでに帰りもお願いします」

自分たちじゃここから帰れないし……

『な、何を言っておるのだ愚か者どもめっ！　思い知るがいいっ！』

お前がな。

これ以上はただの一方的な虐殺なので割愛する。

「……詳しくは動画でね？」

こら！　メタな発言はしない！

「とりあえずこの世界での冒険はこれでお終いさ……」

世界平和もあっけないものだな……

◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇

デスタムーアを倒したせいで夢の世界と現実世界の繋がりが薄れる。

もう夢の世界を周ることはできない。

そして現実世界は周り尽した、それに……

「強大過ぎる力は平和な世界には不要か……」

俺は強くなり過ぎた……そう、魔王すら凌駕するほどに。

そんなものは平和な世界には必要ない、あってはならない。

だから……

「ここぞという時に使え、か……まるで見透かしたようだな」
誰もいなくなったムドーの城、ムドーがいた部屋の跡地。
ここなら誰にも迷惑をかけないだろう……
「それにしても２６年か……地味に長く生きたもんだな」
うん、十分生きたし楽しんだ。
反省点は多々あるし心残りも少しばかりある、でも後悔は……しない。
「――メガンテ」
この日、流星が一筋だけ流れた。
地上から天へと向かって……ただひたすらに美しく、儚く。

◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇

「……で？　ここどこさ？」
目を覚ましたら記憶にない場所にいた。
確かメガンテで砕け散った筈なのに……
辺りを見渡すとまるで古臭い遺跡のような場所だった。
「……ん？　人の気配？」
咄嗟に壁の影に隠れ気配殺し伺う。
まぁ、別に隠れなくてもよかったんだけどさ。

『…てと、今日は……く…いでそろ……城に……ると…るか』

気配の数は……2人？

『えーと出口は……ここだったな。よし……ちを……あげて…れ』

場所は……地下からか？

『でもいいな？　家に帰ってもここのことは誰にも喋るなよ。オレの親父にもナイショだからな！』

声が段々とハッキリしてきた、そして……石の板が動いて、トカゲ？

続いて2人組の男子……イメージ緑色の少年と如何にも貴族風な少年が出てきた。

「……彼らに聞いてみるか」

自嘲するように嘆きながら少年たちに声をかける。

どうやら俺の冒険はまだまだ続くみたいだ……

―fin―

英雄無双…そして楽園へ（後書き）

ムドーを倒した燃え尽き感を書いてみました（笑）

チートプレイの末路なんてこんなもんだよと…

←ついでに元ネタ解説←

?アモスラッシュ

元ネタ：ＴＯＤのリリススラッシュより

?お玉とフライパン（＋エプロン）

元ネタ：ＴＯＤのリリスの装備より

?「切り刻め！　食材適所のカッティング！　はぁぁあ！！　千切り！　乱切り！　微塵切り！　これが俺のぉぉ！！　五月雨斬りだぁぁあ！！」

元ネタ：ＴＯＨのコハクの秘奥義『殺劇舞荒拳』より

「舞踊れ！　桜花千爛の花吹雪ッ！　はぁぁあッ！！　彼岸！　霞！　八重！　枝垂れ！　これがわたしのッ！！　殺劇舞荒拳！」

?マーボーカレー

元ネタ：テイルズ全般における至高の逸品

?フードドーピング

元ネタ：ＴＯＤのフードコラボより

？「コイツは未来へと託す料理人の業（ワザ）だ！　火炎！　五月雨斬りぃぃ！！」

元ネタ：ＴＯＤのスタンのＢＣ『斬空天翔剣』より

「こいつは未来へ託す永劫の剣だ！　斬空天翔剣！」

？みそおでん

元ネタ：マーボーカレーと同様

？閃光烈火拳

元ネタ：ＤＱモンスターバトルロードＶの王女アリーナより

嘘予告～楽園の英雄（前書き）

書いてみました（笑）

ちなみに現在ＤＱ７を思い出しプレイ中（現在ダーマ神殿クリア辺り）

いやぁ、懐かしいですね……発売日の朝に並んで買った記憶が蘇ります。

嘘予告〜楽園の英雄

人は誰かになれる……まぁ、魔物（モンスター）にすら転職する奴らだからな。

☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★

楽園へ降り立った英雄はエデンの戦士たちと共に世界を復活させる未来（みち）を選ぶ。

「我（オレ）はかつて魔王を倒した異世界の英雄（ヒーロー）、フルメタを極めた料理人アモスだ！」

「「……」」

「マジかよ！？　スゲェ！？　やっぱり世界はここだけじゃなかったんだな！」

こっそり先回りした遺跡内で格好付けてみたり（一応、嘘は付いていない）……まぁ、良い反応をしてくれたのは王子だけだったが……

☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★

「アンタらに出来ることは歴史を紡ぐことだ……遠い過去と遠い未来、しっかりと真実を伝え繋げてくれ」

ウッドパルナで救えなかった英雄の妹のために……エンゴウで同じ悲劇を繰り返さないために……

と、格好付けたせいで現代まで俺たちの名前が残ってしまったり……

☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★

「わふーっ！　クドはクドなのです！　よろしくなのですー！」

「それ作品違うから！？」

伝説の白オオカミの生き残りが♂ではなく♀だったり……

☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★

「からくり兵だと？　はん！　我(オレ)を斃したければマジンガ様を万単位用意するがいい！！」

フォーリッシュでからくり兵相手に無双したり……

「ゼボットさんアンタわかってないよ！？　そのエリーには攻撃力、守備力、素早さ、賢さ、なにより……萌えが足りない！！」

その結果、現代にて……

「――とりゃあああああああーーーーーーーーーーーーーー！！！！」

と、フォロッド城をモップ掛けするＨＭＸ－１２が出来ていたり……てゆーか凄過ぎるだろ！？

☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★

「Ｎｉｃｅ　ｂｏａｔ……」

グリンフレークが修羅場過ぎたり……

☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★

「じゃあなキーファ……バーンズ国王には出来ちゃった＋駆け落ちって伝えておくから」

「ちゃんと手紙に詳細書きますから勘弁して下さい！！」

別れの涙が（別の意味で）切なかったり……

☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★

「お兄ちゃん、と呼んでもいいでしょうか……？」

ダーマ神殿のフォズ大神官に告白されたり……

「うぉぉぉぉ！　勝負だ害虫（アモス）！！」

胴長短足の親衛隊に追われたり……勿論、（実力で）追い払ったが。

☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★

「うむ、打倒大魔王に向けよろしくでござる……この逆刃刀（コントローラー）と飛天御剣流（ニート）に誓い必ずや平和を取り戻してみせるでござる」

過去、大魔王に挑んだ英雄が人斬り抜刀斎だったり……なんかルビがおかしかったが気にしない、気にしたら負けだ。

☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★

様々な冒険の果て、ついに魔王の居城まで歩みを進めた楽園（エデン）の戦士たち……

「覚悟しろ！　（自称）大魔お……あれっ？」

「クスクス……遅かったですね、あのナルシストで脳味噌むき出しの魔王（ゴミ）なら既に処済みですよ？」

（自称）大魔王と思わしき者が座っているであろう玉座に足を組み座っている女性が微笑みながらそう語る。

「……まさか、お前は……！？」

「フフフ……お久しぶりですね？　『師匠（にいさん）』」

「……誰ですか貴女は？　お兄ちゃんの妹は私（フォズ）だけです！」

「わふーっ！　クドも負けないです！」

「……言い訳はありますか師匠（にいさん）？」

大魔王戦を超える修羅場が形成されたり……てゆーか弟子（ミレーユ）よ、どうやってここに来たのさ？

「フフフ……勇者に不可能はありません！」

今ここに至上最狂の戦いが幕を開けた……！

嘘予告～楽園の英雄（後書き）

とある事情で今まで使っていたソフトとデータを紛失しました。

それによりメモを使って書いたため、誤字脱字があるかもしれません…

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2850z/

それゆけアモっさん！

2012年1月8日21時45分発行